



特集

シリーズ いしかりの子どもたち ②

安全・安心のために

子どもをめぐる環境は、

常に大人によって大きく左右されます。

子どもの安全・安心もまた、同じです。

「犯罪や事故から子どもたちを守ろう！」

そのためには何ができるかと考え、

行動している人々取材しました。

「スクールガード」

ある日の朝7時半ごろ。紅南公園に、ひととき目立つ蛍光色のジャンパーに身を包んで体操をするグループがあります。花川南第6町内会高齢者クラブ「寿光会」シルバーパトロール隊の面々です。

「何せ年だから、ちゃんと準備体操をしないとねえ」と笑うのは、会長の三戸部和孝さん。体が温まると、いよいよ出発です。「地域安全」を旗印に、目指すは紅南小学校。校庭をぐるっと回って学校に到着すると、パトロー

ル隊メンバーは玄関前に並び、子どもたちを迎えました。

「おはよう！」「勉強頑張れよ！」そんな大先輩たちの声に、子どもたちも元気に「はい」と答えます。

8時を回るころ、メンバーは再び旗を持ち、学校を出発。通学路を子どもたちとは反対に進む形で歩きます。そのメンバーたちの姿を見つけると、子どもたちから積極的にあいさしたり、中には握手を交わす子もいました。

▶市内で一番最初の取り組みとなった紅葉山小学校の「声かけ運動」。



▼川辺蓉子さん(写真右)と渡辺吉夫さん(写真中央)は、ともに紅葉山小学校での「声かけ運動」がスタートした当初から活動が続けています。



▲「子どもたちの安全を守り、明るいあいさつを通して子どもたちとのふれ合いを大事にしたい」という壽光会シルバーパトロール隊。



▲子どもたちから感謝状をもらって。壽光会シルバーパトロール隊の伊藤芳男さん(写真右)と平依久子さん

そんな微笑ましい光景に「へ不審者がここでは悪いことができない」という雰囲気をつくるのが大切なんです」という三戸部さんの言葉が重なりました。

◆安心して通学できるよう

三戸部さんが市の「スクールガード」の講習会に参加し、警察OBの指導を受けながら、子どもたちの登下校を見守るようになったのは、

「声かけ運動」

不審者から通学中の子どもたちを守るという防犯目的から始まった「スクールガード」。これに対し、子どもたちの成長を地域で見守り、子どもを通して住民同士の交流も深めようと始まったのが「声かけ運動」です。

◆大人も活力をもらって

今年で5年目を迎える紅葉山小学校の「声かけ運動」は、同校内のカルチャーセンターに通う有志が集まって始めたのがきっかけ。今では地域住民や元PTAなどの人々が月に2回程度の割合で活動を展開します。

「あらあ、ずいぶん背がのびたんじゃないの?」そんな言葉が自然に出るほど、ここでは子どもたちと運動員は顔なじみです。昨年から参加した阿部文子さんも「地域のためにお

平成17年の秋のこと。

今年から「スクールガード」を指導する「スクールガードリーダー」になった斉藤久則さんも「地域のお役に立てたらと、このたびリーダーに応募しました。元警察官としての経験を生かして、まずは通学路付近の危険箇所を把握し、学校に情報提供したいと思っています。微力ながら、子どもたちが安心して通学できるよう力を注ぎたい」と、抱負を語ります。

手伝いをと始めましたが、本当は私の方こそ、子どもたちと話をすることで活力をもらっているんです」と言います。

6人でスタートした同校の「声かけ運動」も、現在は27人。参加者も増えたことで、不審者から子どもたちを守ろうと、校門前だけでなく、通学路の途中に立つて見守る動きも出てきました。

実はこうした動きは、紅葉山小学校ばかりではありません。平成14年度からスタートした同運動に取り組む小学校は、初年度の6校から17年度には10校にまで増え、しかもその実施回数や参加人数も増加傾向にあります。まさに、子どもの安全に対する大人たちの、強い危機感のあらわれです。